

風の道

名古屋市立大学医療センター広報誌

2025 Winter
vol. 42

TOPICS

教えて！感染症のこと 知ろう！高齢者の予防接種

- 診療科のご紹介
- 部門のご紹介
- 東部トピックス
- ヘルシーレシピ



写真：・千種区民まつりの様子

バックナンバーは
こちら



大学の地域貢献度ランキング 名古屋市立大学が日本一（3回連続）になりました！

※日本経済新聞社「大学の地域貢献度調査」（2021・2023・2025年度）

詳細はこちら



教えて! 感染症のこと



先生、感染症ってなんですか？



細菌、ウイルス、カビ（真菌）、寄生虫などの病気を引き起こす微生物が体内に侵入し、増えることによって体に異常が生じる状態のことです。



感染経路にはどのようなものがありますか？



感染経路には主に、①接触感染、②空気感染、③飛沫感染の3種類があります。病原体の種類（性質）によって、感染経路は異なります。



感染症を予防する方法は？



感染症を成立させる条件としては、病因（病原体）、感染経路、宿主の3つがあります。このうちのどれかを取り除くことにより、感染症を予防することができます。宿主要因については予防接種によって抵抗力を向上させることができます。



感染症にかかりやすい人の特徴は？



高齢の方や小児、妊婦さん、がんや糖尿病など基礎疾患がある方、免疫を抑える薬を使っている方などは、感染症にかかりやすく、また重症化しやすいです。

教えてくれた先生



感染症内科 伊東 直哉 先生

座右の銘：小医は病を癒し、中医は人を癒し、大医は国を癒す

趣味：金魚の飼育



知ろう! 高齢者の予防接種

感染症は、免疫がなければ年齢に関係なく誰でもかかる可能性があります。流行が大きくなれば、たとえ重症化率が低い感染症であっても、結果的に重症者や死亡者の数は増えてしまいます。また、感染した本人が辛い症状に苦しむだけでなく、家族や社会の中で感染を広げてしまうこともあります。高齢者は、加齢による身体機能や免疫機能の低下に加えて、心臓病・糖尿病・呼吸器疾患などさまざまな合併症を抱えていることが多く、感染症にかかると重症化しやすい傾向があります。たとえば肺炎は、高齢者にとって命に関わる病気の一つです。したがって、日常生活を守り、入院や重篤な合併症を防ぐために、予防接種はとても大切です。



当院の予防接種外来では、通院中の患者さんを対象に以下のワクチン接種を推奨しています。

肺炎球菌ワクチン

肺炎は日本人の死因の上位に入る重要な病気で、高齢者では特に注意が必要です。肺炎球菌ワクチンを接種することで、重症肺炎や菌血症のリスクを下げるができます。

带状疱疹ワクチン

加齢に伴い免疫が弱まると、子どもの頃にかかった水痘（水ぼうそう）のウイルスが再び活動し、带状疱疹を発症することがあります。強い痛みや長期にわたる神経痛の原因となるため、予防が重要です。

RSウイルスワクチン

RSウイルスは子どもだけでなく高齢者にとっても重症化の原因となり、肺炎や慢性呼吸器疾患の悪化につながることがあります。ワクチン接種により、重症化を防ぐことが期待されます。

インフルエンザワクチン

毎年流行するインフルエンザは、高齢者がかかると肺炎や心不全などを合併し、命に関わることがあります。流行前に接種しておくことで、発症や重症化を防ぐ効果があります。

新型コロナワクチン

新型コロナウイルスは高齢者で特に重症化リスクが高いことが知られています。継続的な追加接種により、重症化や死亡を防ぐ効果が確認されています。

このように、高齢者にとって予防接種は「かからないため」だけでなく「重症化を防ぐため」に特に重要です。日常生活を安心して送るために、必要なワクチンを適切な時期に接種していきましょう。

放射線診断科



診療を支える縁の下の力持ち

様々な理由で病院を受診された患者様の多くが、最初に受ける検査のひとつに画像検査があります。なかでもCT・MRI検査は、短時間で多くの情報を得られる身近で重要な診断ツールです。当科は常勤医10名、うち放射線診断専門医6名という充実した体制で、画像診断とIVRの2つの柱で、日々の診療をサポートしています。

画像診断：次の一手への道標

私たちが大切にしているのは、検査の安全・品質管理と、迅速で正確な読影です。撮影前には患者様の状態や検査目的を診療放射線技師、看護師としっかり共有し、その方に最適な方法で安全に撮影できるようチームで調整しています。装置のアップデートも進めており、本年9月からは3台目となる最新MRIが稼働しました（図1）。最新のAIを備え、高速撮影と高画質化を実現しました。検査枠も拡充しており、予約もスムーズになりました。

撮影後は速やかに読影、レポート作成を行い、次の検査、治療への主治医の意思決定を後押しします。生命に関わる病態や思いがけない悪性腫瘍など緊急性の高い所見を認めた際には、優先的に主治医へ連絡し、迅速な対応につなげます。



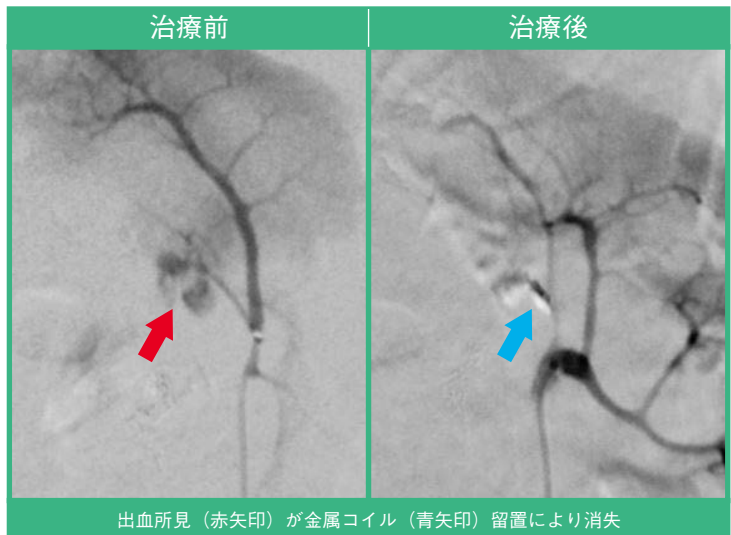
図1 新規導入の最新の3T-MRI

- 最新のAIを備え、高速撮影と高画質化を実現しました
- 放射線被ばくがなく、幅広い患者様にとって安全性が高い検査となります

IVR：針とカテーテルで広がる選択肢

もうひとつの柱がIVR（Interventional Radiology：画像下治療）です。当科にはIVR専門医が2名在籍し、24時間体制でさまざまな手技に対応しています。例えば、針を穿刺し、病変組織を採取して診断につなげ、膿や胆汁の貯留を排出して感染改善を図ります。また血管内治療（カテーテル治療）として、外傷や産後、術後などの出血に対する血管塞栓（止血）や、悪性腫瘍に対する動注・塞栓治療を行います。加えて心臓血管外科と協力して大動脈瘤、大動脈解離に対するステントグラフト治療（TEVAR／EVAR）にも対応しています。

救急の場面ではIVRによる止血が効果的な場面も多く（図2）、針やカテーテルを用いた体の負担の少ない処置を速やかに行い、急性期病院としての重要な機能を担っています。



出血所見（赤矢印）が金属コイル（青矢印）留置により消失

図2 腎損傷に対する緊急止血術

私たち放射線診断科は、患者様と直接お会いする機会は多くありませんが、診療の要所で、画像診断とIVRにより、より良い方向へと後押しする“縁の下の力持ち”です。今後も患者様やご家族、地域医療機関の皆様を支えていけるよう、体制の充実と質の向上に努めてまいります。

セカンドオピニオン外来のご紹介



当院以外の医療機関で診療中の患者さんが、これからの治療方法を自ら選択・決定することの支えとなることを目的として、セカンドオピニオン外来を設置しています。

詳しくはこちらからご確認ください。



放射線治療科

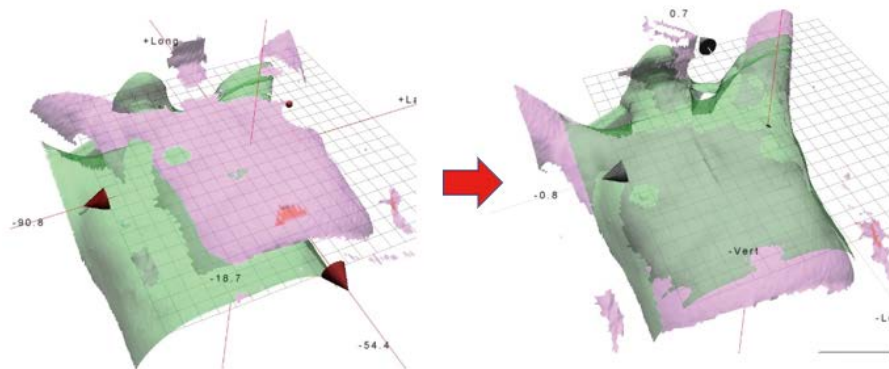


心と体に、もっと優しく。当院の新しい放射線治療のかたち

放射線治療と聞くと、体に負担がかかるイメージをお持ちの方もいらっしゃるかもしれません。当院の放射線治療科が目指すのは、そのような不安を少しでも和らげ、患者さんが安心してのぞめる「心と体に優しいがん治療」です。

その象徴が、東海地区で初めて導入したカタリストによる「SGRT」という位置合わせシステムです。これは、治療のたびにX線写真を撮る代わりに、3Dカメラの「光」で体の位置を正確に確認する技術です。放射線を使わないので被ばくの心配がなく、これまでのように体へ細かく印を付ける必要もなくなりました。「毎回、印を気にしないでいいので気持ち楽です」といった患者さんからの声もいただいています。

また、左胸の乳がん治療では、SGRTを利用して息を大きく吸って心臓を放射線の範囲から遠ざける「深吸気息止め照射」を行い、心臓への負担を減らします。



位置合わせ前

位置合わせ後

位置合わせシステム：カタリストによる「SGRT」

当科では、根治を目指す治療から、痛みなどの症状を和らげる緩和治療まで、多職種のスタッフがチームとなって患者さん一人ひとりを支えます。治療に関する不安や疑問があれば、いつでもお気軽にご相談ください。



放射線治療科スタッフ

がん相談支援センターのご紹介



令和6年4月に開設。患者さんやご家族のほか、地域の方々などなたでも無料でご利用可能です。

相談に関する各種情報は、こちらからご確認ください。



臨床工学室



患者さんと医療機器の橋渡し役 ～臨床工学技士（CE）の役割とは～

当院では、19名のCEが24時間体制で勤務をしています。

私たちCEは、医師や看護師など多職種と連携し、チーム医療の一員として患者さんの治療に携わっており、医療の安全と高度な医療を担保できるよう日々研鑽を積んでいます。今回は、私たちの業務について簡単に紹介させていただきます。

私たちは、手術室、集中治療室、心臓カテーテル室、血液透析室、内視鏡室など活動場所は院内の多岐にわたります。これらの場所で、生命維持管理装置をはじめとする様々な医療機器の操作・管理を行っています。生命維持管理装置とは、患者さんの呼吸や循環、代謝といった生命の根幹に関わる機能を代行・補助するための装置であり、その取り扱いには高度な専門知識と技術が求められます。

例えば、肺の働きを助ける人工呼吸器、腎臓の機能を代行する血液浄化装置、心臓手術の際に心臓と肺の役割を一時的に代行する人工心肺装置などがあります。近年、新型コロナウイルス感染症の重症患者さんの治療で注目されたECMO（体外式膜型人工肺）も、私たちが関わる装置の一つです。私たちは、医師の指示のもと、これらの装置を患者さんの状態に合わせて的確に操作することだけでなく、医療機器が常に安全かつ正常に作動するよう、使用前の準備や点検、使用中の監視、使用後の点検までを一貫して行い、機器のトラブルにも対応します。

医療技術の進歩は目覚ましく、医療機器は年々高度化しています。このような状況の中、患者さんが安心して治療を受けられるよう、私たち臨床工学技士の役割はますます重要になっています。今後も、医療機器の専門家として、知識と技術の向上に励みながら、安全で質の高い医療の提供に貢献してまいります。



臨床工学室スタッフ



人工透析



心臓カテーテル



人工心肺

あじさい基金について

当院では、広く寄附のご協力を仰ぎ、診療研究、人材育成及び医療環境の充実を図ることを目的として「あじさい基金」を設置しております。また、その成果を通じて地域の中核病院としての役割を果たして参りたいと考えております。皆様方のお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

詳しくは
こちらから



8/27・11/12
水曜日 水曜日

第174回(8/27開催)、第175回(11/12開催)市民健康講座

第174回は、「高齢者の予防接種」と題し、伊東直哉感染症内科教授が、高齢者にとって必要なワクチンは何か、なぜ必要か、どんな効果があるかなど、わかりやすくお話ししました。

第175回は、「最近声がかすれたりしませんか?」と題し、讃岐徹治耳鼻いんこう科教授が、のどの構造、機能、声にまつわる病気、その治療等について詳しくお話ししました。

どちらの講座も、たいへん身近で興味深い話題で好評を得ました。次回は2月25日開催「お酒、おいしいけれど…脾臓は大丈夫?」です。詳しくは広報なごや2月号、当院ホームページをご覧ください。



感染症内科
伊東直哉 教授



耳鼻いんこう科
讃岐徹治 教授

10/5
日曜日

千種区民祭りに参加しました!

平和公園メタセコイア広場で開催されました千種区民祭りに参加し、救急車展示や「なりきりキッズ・ドクター&ナース」を行いました。多くのご家族にお立ち寄りいただき、救急車の前では白衣に袖を通した子どもたちが記念撮影を楽しんでいました。



10/25
土曜日

災害対応訓練を行いました

伊勢湾沖を震源とする震度7の地震発生を想定した、災害対応訓練を行いました。

当日は、災害対策本部の立ち上げ、患者の受け入れ体制の確保、模擬患者によるトリアージ訓練を行い、発災から患者受け入れまでの流れを確認しました。

訓練には学生ボランティアにも患者役としてご協力をいただきました。

今回の訓練を通じて、新たに見えた改善点についてはマニュアルに反映し、災害対応の強化を図っていきます。



10/27~31
月~金曜日

「世界脳卒中デー」ライトアップ

10月29日は世界脳卒中デーで、脳卒中の予防・早期発見・治療の重要性を世界中に呼びかける日です。全国の施設がインディゴブルーにライトアップされます。

当院でも、患者さんに脳卒中への理解を高め、その予防に努めていただくことを目的とし、10月27日から31日までの期間、ライトアップ活動に参加しました。



11/3
月曜日

いいお産の日

東部医療センターで「いいお産の日」を開催しました。

毎年西部医療センター助産師と合同で行っている「いいお産の日」ですが、今年は助産学生さんも加わり、とても賑やかなイベントとなりました。

当日は、妊婦さん・子育て中のご夫婦から祖父母の方まで、幅広い世代の方々に参加していただくことができました。各種教室及びマタニティヨガやベビーマッサージなど、体験型クラスは大変好評で、参加者同士の素敵な交流の場となりました。また、お産劇では、陣痛との向き合い方や出産までの流れを助産師が熱演し、こちらも感動の声をたくさんいただきました。

主催した私たちにとっても、違う現場でお産に向き合う助産師や、助産師を目指す学生さんとの関わりはとても良い刺激となり、実りある1日となりました。



11/14
金曜日

世界糖尿病デー in 名市大東部医療センター クイズで知ろう!糖尿病(ダイアベティス)

11月14日はWHOが定める「世界糖尿病デー」です。

今回で4回目となった当院における世界糖尿病デーイベントですが、院内外から66名の方にご参加いただきました。体験型のブースや各ブースに設けられたクイズを通して、糖尿病(ダイアベティス)に関する知識を深めていただく良い機会となりました。

スタッフとして大学生も約15名参加し、活気あふれるイベントとなりました。今後も、糖尿病(ダイアベティス)について積極的な情報提供を実施していきたいと思ひます。ぜひ皆さまご参加ください!



11/15
土曜日

伊東直哉教授(感染症内科)が「ナゴヤ小中学生STEAMラボ2025」の講師を担当

「ナゴヤ小中学生STEAMラボ2025」で、伊東直哉教授(感染症内科)が「顕微鏡で見てみよう!身近な食品にいる細菌たち」をテーマに実験講座を行いました。

参加した小中学生は、発酵食品などを実際に顕微鏡で観察し、身近なところにいる微生物の世界に興味津々。楽しみながら科学への関心を深める、にぎやかな時間となりました。



2026年
2月
開始

「膵臓がん検診」を開始します

東海地区の
国公立大学病院
初

名古屋市立大学医学部附属東部医療センターでの膵臓がん検診

1泊2日(金曜13時から、翌土曜朝まで特別室入院)で下記の項目を行います

1



問診

2



採血
(膵臓がんマーカー)

3



腹部超音波

4



MRI
(MRCP)※1

5



超音波内視鏡
(鎮静:眠って)※2
特別室に1泊

6



翌朝に
前日の
結果報告

※1 閉所恐怖症の方等はCTに変更 ※2 日本膵臓学会認定指導医が施行

検査料金(税込)

142,000円

MRI不可の場合はCT:134,000円

ご予約・お問い合わせ

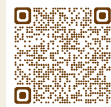
医事課:受付窓口・検診担当

052-721-7171 (代表)



栄養管理料理

ヘルシーレシピ



年末年始、
ついつい食べ過ぎてしまった方にも
おすすめなおからとえのきで
食物繊維たっぷりのつくねです。



えのきでかさ増しすることで、つくねが
柔らかく仕上がります。
また、えのきの食感で食べ応えもあり、
満腹感も得られます。
おからパウダーは食物繊維を豊富に含み、
便秘解消・美肌・免疫力UP・生活習慣の
予防にも効果的です。

おからつくね

材 料 (4人前)

【たね】
鶏ひき肉 …………… 150g
えのき…………… 1袋
おからパウダー …………… 20g
水 …………… 100cc
おろししょうが …… 5g (小さじ1)
卵 …………… 1個
片栗粉 …………… 大さじ1
塩 …………… 少々

【あん】
片栗粉 …………… 小さじ1
水 …………… 大さじ2
醤油…………… 大さじ2
みりん…………… 大さじ2
砂糖…………… 大さじ1

1食あたりの栄養価 (1人分) **185kcal**

たんぱく質 …… 11.2g 炭水化物 …… 13.8g (うち食物繊維…2.6g)
脂質…………… 9.2g 塩分…………… 1.2g

作り方

- ① えのきはみじん切りしておく。
※えのきは石突きを残して、先端から切るとパラパラになりにくいです
- ② 鶏ひき肉、①のえのき、おからパウダー、その他【たね】の材料をボールに入れて、粘り気が出るまでよく混ぜる。
※この時、水の量は硬さをみて調整すると良いです
- ③ 食べやすい大きさに形成する
- ④ 熱したフライパンに油をひき、中火で両面に焼き色がつくまで焼く。焼き色が付いたら、弱火にして約5分間蒸し焼きにし、一旦取り出す。
- ⑤ フライパンの油をさっと拭き、【あん】の材料をよく混ぜ合わせてたものを弱火にかける。かき混ぜながらとろみが付くまで加熱し、つくねをフライパンに戻してあんをからめる。



名古屋市立大学
医学部 附属 **東部医療センター**

発行者／名古屋市立大学医学部附属東部医療センター広報委員会
〒464-8547 愛知県名古屋市千種区若水一丁目2番23号
TEL 052-721-7171 (代表)

東部医療センター

検索

<https://w3hosp.med.nagoya-cu.ac.jp/toubu/>

